岡山県立博物館だより

26号
3月31日
1986

昭和60年度の回顧

――思いつくままに――

館長　友野澄雄

昭和60年度が終わるにあたり，岡山県立博物館の１年の歩みを回顧しながら，若干の感想を記しておく。

昭和46年に開館した本館は，今年15周年を迎えた。そこで開館15周年記念展「－古代のロマンをさぐる－筑紫・吉備・大和の遺宝」を10月５日から11月４日まで開催した。

この記念展は，古代日本の揺籃の地ともいうべき，筑紫・吉備・大和の地域から発見された文化遺産のうち，農耕文化の形成から巨大な古墳の築造が開始されるまでの時代の重要な遺品，すなわち，日本の歴史を考える上で欠くことのできない遺宝を展示した。その数は，国宝３点，重要文化財31点を含む約300点であった。

このように，筑紫・吉備・大和の遺宝を同時に展示したのは，３地域を比較にすることによって，県民の吉備に対する理解が一層深まるであろうと考えたからである。幸い多数の鑑賞者と専門家の賞賛をいただき，成功であったと自負している。

開館いらい特別展は，岡山県にあるもの，岡山県に関係深いものを展示してきた。今年度のように，他地域との比較展示は，本館にとっては画期的なことであり，今後の展示の１つの方途を示すものではないかと思っている。

例えば，備前焼の展示を行うにしても，中世六古窯の中での備前焼の地位・役割を考えていくような展示も１つの方法ではないかと思う。

テーマ展は，「岡山の仏教絵画」と「たたら製鉄の歴史」であった。

前者は６月18日から７月21日までであり，県内にある国指定重要文化財10件，県指定重要文化財６件を含む約30点を展示し，各時代の信仰の様相と仏教絵画を楽しんでいただいた。

後者は８月７日から９月27日までであり，国内屈指の産鉄量を誇っていた中国山地一帯の製鉄作業に使っていた道具や文書等によって，たたら製鉄の歴史の概要を展示した。

博物館講座は６月21日から７月19日までの毎週金曜日の５日間実施した。講師は外部から３人と，本館の学芸員６人の計９人。受講生は67人。１講師１テーマで岡山県の歴史と文化を学習するものであった。生活にゆとりのある人々は旅行や見学会等へ参加する機会は多い。そしてまた，テレビ等によって，断片的な知識を得る機会は多い。しかし，本館の講座は，実物資料によって体系的に学習することにその特色がある。今後ますます充実していく必要があると考えている。

鉄筋コンクリート造りの建物とはいえ，15年間風雨にさらされれば外壁もいためば，休むことなく働き続ける空調・給排水設備の老朽化は進む。開館15年，それは施設・設備の総点検の時期でもある。また，館運営のマンネリ化への危ぐ等，反省の日々でもある。

後楽園を中心に半径約500mの地域に６つの文化施設がある。それは，岡山美術館，岡山城，夢二郷土美術館，オリエント美術館，後楽園，県立博物館である。これらの文化施設が連携を図り，地域の活性化を図ろうと，一昨年来協議を重ねた結果，昨年10月「岡山カルチャーゾーン連絡協議会」として発足した。それぞれの施設が内容充実に努め，将来は統一テーマによる展覧会の開催など，岡山の代表的文化地域となりたいと願っている。

なにはともあれ，岡山県立博物館は文化の継承・発展の１つの核でありたいものである。

昭和60年度特別展オープンより

特別展

古代のロマンをさぐる
筑紫・吉備・大和の遺宝

10. 5 ～11. 4

本年度の特別展は，開館15周年記念展として，記念展実行委員会，岡山県教育委員会，岡山県立博物館，山陽新聞社の共催で開催した。

この展覧会は，古代日本文化の揺籃の地ともいうべき，筑紫・吉備・大和の地域に栄えた古代文化の遺産を集めたもので，農耕文化の形成から，古墳時代の開始される頃までの時代に焦点をあてて構成した。それは，これらの地域が，日本文化の基調となる文化形成に重要な役割を演じるときであり，文化的にも，政治的にも日本の歴史的展開を考えるうえで，欠くことのできない地位を占めているためである。

展示は，第１室に「農耕文化の生成」として，大陸農耕技術の波及と，弥生文化成立期の遺物を展示した。そこでは，北九州を始め，吉備地方から近畿地方までの各地で，縄文文化の中に，大陸文化が浸透して弥生文化を生み出してゆく姿を示した。農耕文化は，これまで推測されていたよりも速やかに縄文文化の中に広がっていったことが，近年の調査で明らかされつつあるが，その成果を各地の出土遺物で展示構成したものである。

第２室は，「王者の墓と青銅の神器」と題して，伊都国王墓といわれる三雲遺跡２号甕棺をはじめ，佐賀県宇木汲田遺跡の甕棺出土の銅矛・銅剣・玉類(重要文化財)及び桜馬場遺跡の甕棺出土の銅鏡・銅釧・巴形銅器(重要文化財)など北九州各地の王墓の出土品や，吉備地方，近畿地方から発見された銅鐸などを展示した。この展示資料中には，近年，北九州地方で発見され，考古学界に波紋を呼んだ九州産の銅鐸鋳型や，国宝の神戸市桜ケ丘銅鐸など，多数の貴重な資料が含まれている。

国宝 神戸市桜ケ丘1号銅鐸

第３室では，「弥生時代の地域文化」の題名で弥生時代中期から後期にかけての時代に，筑紫，吉備，大和河内の地域で独自に発達した文化を反映した遺物として，各地の土器を中心に展示した。この土器と合わせて，筑紫地域で盛行した甕棺，近畿地方で一般化した組み合わせ木棺，吉備地方で弥生時代終末期に産み出された特殊器台など，地域的な特色をよく示す遺物を展示した。近年，各地で注目を集めている他地域からの搬入土器では，大和，河内地方に持ち込まれた吉備系の土器の代表的な資料を展示した。

第４室は，「大王の時代」として，三角縁神獣鏡を中心に，古墳時代初頭の遺宝を集めて構成した。岡山市湯迫車塚古墳出土の鏡７面が展示されたが，そのうちの１面である三角縁神獣車馬鏡は，福岡市藤崎遺跡から発見された鏡と同笵で造られており，２面の同笵鏡が並べて展示された。

また，宮内庁所蔵の大和新山古墳（大塚陵墓参考地）出土の鏡や金銅製帯金具など，古墳時代では，大和に強大な力がたくわえられていたことを物語る多くの遺物を展示した。古墳時代の初期に，吉備と大和の間に深いかかわりのあったことを示す遺物として注目されている箸墓古墳出土の特殊器台や特殊壷など，中国地方では初めて公開された資料が多数含まれている。

流雲文縁方格規矩四神鏡

主な出品物

●国宝　◎重要文化財

（名称）	（出土地）	（所蔵者）
菜畑遺跡出土物	菜畑遺跡	唐津市教育委員会
夜臼式土器	板付遺跡	福岡市教育委員会
板付Ⅰ式土器	〃	〃
縄文晩期の土器	大福遺跡	橿原考古学研究所
漢委奴国王金印（複製）		福岡市教育委員会
◎細形銅剣	宇木汲田	唐津市宇木区
◎細形銅矛	〃	〃
◎硬玉・勾玉	〃	〃
◎碧玉・管玉	〃	〃
三雲２号甕棺	三雲遺跡	福岡県教育委員会
内行花文清白鏡	二塚山遺跡	佐賀県立博物館
素環頭太刀	〃	〃
鉄　　剣	〃	〃
内行花文昭明鏡	椛島山遺跡	〃
波文縁方格規矩四神鏡	〃	〃

◎流雲文縁方格規矩四神鏡	桜馬場遺跡	佐賀県立博物館
◎素縁方格規矩渦文鏡	〃	〃
◎巴形銅器	〃	〃
◎有鉤銅釧	〃	〃
ゴホウラ貝輪	金隈遺跡	福岡市教育委員会
丹塗磨研土器	東小田遺跡	夜須町教育委員会
細形銅剣	岡山市飽浦	東京国立博物館
特殊横帯文銅鐸	岡山市足守	〃
◉銅戈	桜ケ丘	神戸市立博物館
特殊横帯文銅鐸鋳型	赤穂ノ浦	福岡市教育委員会
◉桜ケ丘1号銅鐸	桜ケ丘	神戸市立博物館
◉桜ケ丘2号銅鐸	〃	〃
銅鐸	勝央町植月	津山市教育委員会
〃	岡山市兼基	岡山県立博物館
銅鐸土製鋳型	鍵遺跡	橿原考古学研究所
◎銅戈鋳型	多田羅	九州歴史資料館
須玖式土器	藤岡遺跡	福岡市埋蔵文化財センター
仁伍式土器	絵図遺跡	
特殊器台	総社市宮山	岡山県立博物館
〃	西山遺跡	真備町教育委員会
木棺	巨摩廃寺遺跡	大阪文化財センター
吉備系土器（中期）	鍵遺跡	田原本町教育委員会
特殊器台破片	箸墓古墳	宮内庁書陵部
特殊壺破片	〃	〃
壺形土器	〃	〃
銅弧	メスリ山古墳	橿原考古学研究所
銅鏃	〃	〃
銅鏃形石製品	〃	〃
玉杖	〃	〃
石釧・椅子形石製品	〃	〃
円筒埴輪	〃	〃
直弧文鏡	新山古墳	宮内庁書陵部
三角縁二神二獣鏡	〃	〃
三角縁三仏三獣鏡	〃	〃
三角縁三神三獣鏡	〃	〃
三角縁四神四獣鏡	〃	〃
画文帯環状乳四神四獣鏡	〃	〃
変形方格規矩四神鏡	〃	〃
三角縁三神三獣鏡	〃	〃
三角縁三神三獣鏡	〃	〃
金銅製帯金具	〃	〃
三角縁四神四獣鏡	車塚古墳	東京国立博物館
三角縁獣文帯五神四獣鏡	〃	〃
三角縁四神二獣鏡	〃	〃
三角縁二神六獣鏡	〃	〃
三角縁神獣車馬鏡	〃	〃
三角縁神獣車山鏡	〃	〃
画文帯重列神獣鏡	〃	〃
三角縁仏獣鏡	天神山古墳	
三角縁神獣車馬鏡	藤崎遺跡	福岡市教育委員会

博物館講座

恒例となった『博物館講座』を下記の内容で実施した。本講座は「岡山県の歴史と文化」のテーマの下，外部の専門家や本館学芸員を講師とし，館蔵の実物資料を活用しながら郷土の豊かな文化遺産を理解しようとするものである。今年度は，外部講師の方々に，津山洋学を築いた先達の人間像，現代焼物のルーツともいえる須恵器の生産，岡山城下の繁栄の姿，をそれぞれご講義いただき，内容も充実したものとなった。実物資料を目の前にした講義は好評で，今年度は募集人員の倍以上の応募をいただいたため，抽選により受講者を決定したが，20代からご年輩の方まで，より幅広い層に浸透しつつある。

ただ，実物資料を生かしてという関係から受講者の数を限らねばならないこと，開講時期がちょうど梅雨にあたる，という2つの問題点を残した。そこで昭和61年度は開講予定を早めるなど，当館としてもこれらの課題に善処し，少しでも多くの方々に博物館を上手に利用していただきたいと願う次第である。

昭和60年度博物館講座より

講座内容

テーマ	講師	開講日
博物館の仕事	学芸課長 高橋 護	6.21㈮
岡山県の仏教絵画	学芸員 守安 収	〃
古地図の世界	学芸員 臼井 洋輔	6.28㈮
津山洋学	津山洋学資料館 学芸員 下山 純正	〃
瀬戸内の海上交通	主任 竹林 栄一	7. 5㈮
古代の窯業	県史編纂室主任 伊藤 晃	〃
明治の女権と家	主事 八田 真	7.12㈮
古代山城	学芸課長 高橋 護	〃
たたら製鉄の歴史	主事 田村 啓介	7.19㈮
岡山城下町	兵庫教育大学教授 柴田 一	〃

テーマ展

岡山県の仏教絵画

6.18～7.21

国宝・重要文化財に指定されている絵画のうち，仏教絵画を主体とする宗教画は全体のおよそ3分の1に達している。日本絵画史においては，平安時代までの遺品のほとんどが仏教関係のもので，鎌倉時代に入ってもその占める割合は大きい。そして，岡山県下の場合でも，現在，国や県の重要文化財の指定絵画は28件を数えるものの，その8割までが仏教絵画なのである。

地蔵十王像　日光寺蔵

さて，県下には，鎌倉時代から近現代に至るまでの間に制作されたおびただしい数の仏教絵画が伝存している。その多くは密教および浄土教に関わるものであり，また中国大陸や朝鮮半島から渡来した仏画が散見することも特記に値する。ともあれ，これは仏教が各時代を通じて人々の心の糧として厚い尊崇をうけてきたことを物語るものといえ，その背景には，法然・栄西・寂室らの高僧が輩出したという地域性や，当地が古来，山陽道や瀬戸内航路の要衝に位置していたという地理的条件があったと思われる。

このテーマ展では，密教画や浄土教画のほか，頂相といった禅宗絵画に不可欠な作品に加えて，禅林との関わりの深い水墨画も紹介した。また，寺院開創の縁起を描く絵巻や，純粋な絵画とはやや性格を異にするもの，阿弥陀如来の胎内に納入されていた印仏，さらに刺繍により仏像をあらわした繍仏などもとりあげて，仏教絵画というものを幅広く展観した。（重文10件，県重文6件を含む）

主な出品物

（◎重要文化財，○県指定重要文化財）

◎仏涅槃図	1幅	鎌倉	笠岡市	安養院 自性院
◎両界曼荼羅図	2幅	室町	英田町	長福寺
◎不動明王像	1幅	鎌倉	〃	〃
◎地蔵菩薩像	1幀	南北朝	矢掛町	棒沢寺
◎十王像	2幀	室町	総社市	宝福寺
◎地蔵十王像	1幀	高麗	笠岡市	日光寺
出山釈迦像（拙宗等揚筆）	1幅	室町	岡山市	個人
○繍帳阿弥陀三尊来迎図	1幀	南北朝	久米南町	誕生寺

テーマ展

たたら製鉄の歴史

8.7～9.27

古くから中国山地一帯で稼業された「たたら製鉄」（砂鉄製錬）は，「真金吹く」という吉備の枕詞に象徴されるように，岡山県の産業史の上で重要な意味をもつものであった。砂鉄と木炭資源に恵まれた中国山地は，幕末～明治期の洋式製鉄技術導入前まで，国内屈指の産鉄量を誇っていたが，今では山間に散在する鉄滓だけが昔日の繁栄を物語っている。

展示は，県内各地の製鉄遺跡出土資料や近世期の鉄穴流しによる砂鉄採取やたたら経営に関する絵図や古文書，さらに製鉄作業に使用した道具類，製鉄の神として尊崇された金屋子信仰資料など，各種の歴史・民俗資料で構成し，たたら製鉄の概要を紹介した。

主な出品物

（資料名）	（点数）	（所蔵者）
随庵古墳出土鉄器	32点	岡山県教育委員会
大蔵池南製鉄遺跡（レプリカ）	1基	久米町教育委員会
田淵1号製鉄遺跡出土鐇	1点	哲多町教育委員会
たたら製鉄絵馬	1面	島根県　美保神社
鉄荷請取状	2通	岡山県史編纂室
県内鉄穴場・鉄山絵図	6鋪	個人
鉄穴流し用具	2点	㈱鳥上木炭銑工場
たたら製鉄用具	29点	㈶日本美術刀剣保存協会
玉鋼・玉鋼荷	7点	個人
鉄荷荷札	5点	個人
小割鉄（包丁鉄）	3点	個人
濁水訴訟関係文書	2巻	個人
奉納初花	1面	富村　布施神社
奉納初花	1面	久米町　少林寺
金屋子神社勧化帳	1冊	島根県　金屋子神社
金屋子神掛幅	4幅	島根県　金屋子神社

たたら製鉄絵馬　美保神社蔵

昭和60年度 収蔵資料

購入資料

○鶴山丸山古墳出土仿製鏡（四神鏡）　1面　古墳時代前期
○絹本著色　四睡図　1幅　淵上旭江筆　江戸時代後期
○絹本墨画　米法雨霽山水図　1幅　広瀬臺山筆　文化4年
○絹本著色　古石長椿図　1幅　黒田綾山筆　赤松滄洲賛　天明6年
○紙本淡彩　草木図　扇面1面　浦上春琴筆　天保5年
○紙本墨画　墨蘭図　扇面1面　浦上秋琴筆　嘉永7年
○色々威大鎧展開図　1巻　享和2年
○武元登々庵筆　三体法書　2巻　享和元年
○絹本著色　奥秘三勝　武元登々庵詩　1巻　文化14年
○室鳩巣　七言絶句　1幅　江戸時代中期
○先哲尺牘　1巻　緒方洪庵・澄月ほか書状20通　江戸時代
○備前焼　矢筈水指　江戸時代
○備前焼　火入　桃山時代
○備前焼　牡丹餅文（陶板）皿　桃山時代
○備前焼　櫛目文壺型水指　桃山時代

米法雨霽山水図
広瀬臺山筆

臺山は美作国津山藩士で，画技は大雅門人の福原五岳に学んだ。彼は藩の江戸留守居役を努める一方，谷文晁ら著名な文人たちと交際を深め，緻密で謹厳細密な山水画をよくした。本図は，雨があがり晴れていく情景を，前景を西洋の遠近法で，後景を中国の米法で描いた異色の作である。

寄贈資料

紺糸威二枚胴具足

○袈裟襷文銅鐸	1点	岡山市	岸本　郁栄
○水屋甕・耳付小壺・弥生式土器	4点	邑久町	太田　　巌
○須恵器	1点	岡山市	原野　正浩
○碇石	1点	岡山市	陶守　　誠
○河本立軒作　宝朱香合	1点	岡山市	藤原　徳治
○紺糸威二枚胴具足	1領	千葉県	住田　弥生
○備前焼大甕	2点	和気町	大国　親子
○長久保赤水　日本全図1鋪ほか	全8点	岡山市	吉田　忠男
○昭憲皇太后下賜化粧道具	1式	新見市	安田　民子
○螺鈿卓・香炉	2点	〃	〃
○茶臼	1点	岡山市	三村喜与子
○烏城紬関係資料ほか	全12点	灘崎町	大野　　緑

（敬称略）

以上，貴重な資料の寄贈を受けました。長く大切に保管するとともに本館の展示資料として有効に活用させていたたきます。ここにご寄贈くださいました方々のご芳名を記し，厚く御礼申し上げます。

昭和61年度事業のお知らせ

○ テーマ展「浅原安養寺」

7.30〜10.19

安養寺裏山経塚出土　図像瓦

安養寺は倉敷市浅原に所在する真言宗寺院で，山号は朝原山という。創建の時期は不明であるが，遅くとも11世紀には相当の規模の僧坊を有していたものと思われる。また，平安末期に平家打倒の謀事が露顕して流された藤原成親が当寺で出家したことが『源平盛衰記』に載っている。

さて，安養寺は12世紀の造立と考えられる毘沙門天群像の存在で知られている。かつては毘沙門天百八躰を本尊としていたと伝え，今なお後補部分が多いものの約40躯の像が壇上に林立している様は壮観というほかない。そして，そのシンボル的な像が二鬼を従え，地天女の掌上に立つ兜跋毘沙門天立像（重文）である。これはヒノキ材の彫りの深い一木彫成像であり，これと構造や表現手法の似通った吉祥天立像（重文）も当寺に伝来している。その他，安養寺の裏山経塚からは，法華経を刻んだ瓦経や，薬師如来を陰刻した図像瓦などの資料（重文）が出土している。経塚の造営は11世紀末と想定されているが，伴出物には白鳳期の誕生仏なども含まれており，わが国屈指の内容を誇る。

このテーマ展では，安養寺に関わる多種多彩な文化財を一堂に会して紹介することにより，その歴史の一端に触れてみたいと思う。

なお，予定されている主な出品物は次のとおりである。

毘沙門天立像

		（◎重要文化財）
◎木造兜跋毘沙門天立像	1	躯
◎木造吉祥天立像	1	躯
木造毘沙門天立像	8	躯
◎安養寺裏山経塚出土資料	1	括
銅製阿弥陀如来立像	1	躯
		ほか

○ テーマ展「岡山の肖像画」

9.17〜10.19

県指定重要文化財　宇喜多能家像（部分）　館蔵

この展覧会は岡山県の歴史に深い関わりをもつ人々の肖像を中心に，それぞれの筆跡や著作などをあわせて展観し，肖像に描かれた人々の人間像を広く紹介しようとするものである。

岡山県博物館だより　No.26
発行日　昭和61年3月31日
発行者　岡山県立博物館
館長　友野澄雄
岡山市後楽園1－5
☎（岡山）72-1149